



佐賀大学の学生との意見交換会（詳しくは8ページ）

令和7年 11月定例会 概要 (会期 11月26日～12月16日)

令和7年11月定例会県議会では、令和7年度一般会計補正予算案など42件の議案等が審議され、予算議案及び条例議案等33件、意見書案3件が可決、人事議案2件が同意、県民の方から提出された請願1件が採択されたほか、9月定例会において継続審査となり、閉会中に開催された決算特別委員会において審査された「令和6年度佐賀県歳入歳出決算の認定について」など2件の決算議案が認定されました。

○令和7年度補正予算関係

- ・令和7年度佐賀県一般会計補正予算（増額後総額約5,553億2,200万円、対前年同期比0.7%減）
- ・産業用地造成事業特別会計補正予算、育英資金特別会計補正予算 など計5件

令和7年11月定例会で条例などが次のとおり可決されました

■ 条例 (11件可決)

- 佐賀県手数料条例の一部を改正する条例案
【内容】 いわゆる盛土規制法に基づく規制区域指定に伴い、当該区域の一定規模以上の盛土許可申請等に係る手数料を新たに規定するもの。

他10件

■ 意見書 (3件可決)

- 医療・介護等の提供に係る物価・賃金の急激な上昇等に対応するための診療・介護報酬改定と財源確保を求める意見書
- 脳脊髄液漏出症患者の救済を求める意見書
- 太陽光発電設備のリサイクル等の推進及び適正な廃棄処理に関する意見書

■ 請願 (1件採択)

- 私学助成の大幅増額・教育費の保護者負担の軽減・教育条件の改善をもとめる請願書

その他の議案等は[こちら](#)→

令和7年11月定例会
議案採決結果一覧表 (PDF)



主な内容

・令和7年11月定例会の概要、可決された条例・意見書など	1
・本会議質問 15人の議員が行った主な一般質問と答弁要旨	2～5
・委員会の概要 各常任・特別委員会の主な審議事項など	6～7
・その他の議会活動など	7～8

「佐賀県議会映像配信」や「会議日程」、「会議録」などがご覧いただけます。

佐賀県議会 検索



議案に対する議員の表決態度（賛否）は、県議会ホームページで公表しています。（佐賀県議会 → 議案等の審議結果 → 議案件名一覧）



本会議質問

各議員が行った質問の中から一部を紹介いたします。

質問議員

※質問順

一般質問

12月2日(火)

- 藤木卓一郎 (ふじぎたくいちろう)
- 土井敏行 (どいとしゆき)
- 野田勝人 (のだまさこ)
- 中本正一 (なかもとしょういち)
- 桃崎祐介 (ももざきゆうすけ)

12月3日(水)

- 原田寿雄 (はらだひさお)
- 古川裕紀 (ふるかわひろのり)
- 定松一生 (さだまつかずお)
- 青木 一功 (あおきかずのり)
- 藤崎輝樹 (ふじさきてるき)

12月4日(木)

- 武藤 明美 (むとうあけみ)
- 下田 寛 (しもだひろし)
- 坂口 祐樹 (さかぐちゆうき)
- 弘川 貴紀 (ひろかわたかのり)
- 留守 茂幸 (るすしげゆき)



各議員の質問一覧は「佐賀県議会映像配信」でご確認ください。



各議員の質問の様子(二次元コード)が読み取れないときは、カメラのズーム機能を利用してお試しください。



自由民主党
藤木卓一郎 議員
小城市選出



自由民主党ネクストさが
土井敏行 議員
鹿島市・太良町選出



県民ネットワーク
野田勝人 議員
多久市選出



九州新幹線 西九州ルートについて



石破前総理が「佐賀県の納得を得ることは国の責任」と発言をされたことを受け、国土交通省の水嶋事務次官と知事との会談が3回も実施され、国から県の負担軽減策や県全体の未来について提言があつていと思う。

そういう中で新鳥栖ー武雄温泉間のルート選定については、県の交通ネットワーク全体を生かし、大きな価値を生み出す佐賀駅を通るルート以外にはないと考える。また県は事態を打開する立場にないという認識を改め、国と一体となり県民のために議論を前に進める責任があると思うがどうか。



フル規格は全く新しい話でルート一つ取っても様々な意見がある。

ルート一つ取っても様々な意見がある。整備新幹線は一面的ではなく、ルート、在来線、財政負担、地域振興など様々な課題を多面的に考えることが重要。それぞれにおいて、楽観的に将来を見通して前に進むことは県民のためにならない。議員の意見はフル規格ありきの国側の意見のようで、視座が違つと感じる。

水嶋次官とも新幹線スキームの課題など様々な意見交換はできている。

他の質問項目▶ 唐津市沖洋上風力発電事業 / 肥前精神医療センターへの支援 / 県が管理する道路、河川の除草

県立大学について



先日、基本設計の概要版が発表され具体的な絵を目にして期待感がより膨らむようになった。今後は、県立大学の意義や佐賀県の置かれている高等教育の現状が全国的なトレンドとは異なることを、より関係が深いターゲットに向けて効果的に届ける工夫も必要と考えるが、どのように取り組んでいくのか。また、学びの内容や教員の公募などの進捗状況と今後の見通しはどうか。



県立大学はそこに通う学生の目指しており幅広い層がターゲット。教育や企業などの現場や保護者など関わり方や関心事も異なるため、それぞれに伝えられるような説明や意見交換を行っていく。

開学に向けては、どのようなカリキュラムでどのような人材を育てるのが、高校や企業、地域とどのように連携していくのかというソフト面が重要であり、教育内容や学びの手法の詳細を検討中。教員公募にあつては、身分や給与等条件の議論中であり令和8年4月を目途に順次公募を行っていく。

他の質問項目▶ 九州新幹線西九州ルート / 地域における文化の継承 / 水源地保全条例

老人クラブに対する 補助金について



老人クラブや連合会が減少していく現状に対し、広報活動やリーダー育成など、新たな試みを行うための財源が不足しているという声がある。老人クラブは重要な社会資源と認識し、所要の財源措置を行い、活動促進に配慮が求められている。そこで、県の補助金の状況はどうなっているのか伺いたい。

また、老人クラブや連合会、市町の実情等を調べ、生かしていただきたいがどうか。



補助金は、各老人クラブから市町の老人クラブ連合会に申請をされ、取りまとめ後、補助事業の実施主体である市町に申請がされ、市町から交付される。

県は、国と合わせ対象経費の2/3以内の金額を予算の範囲内で、市町に補助をしているところである。令和6年度の実績は、老人クラブ数が767クラブ、市町の連合会が19団体あり、国から市町に約2100万円補助をしている。また、それぞれの市町がどういう状況の中で申請をしてくるのか、老人クラブの実情を調べて、どういう形がいいのかしっかりと考えていきたい。

他の質問項目▶ 中国残留邦人等への援護 / 自発の地域づくりに向けた「人づくり」 / 有害鳥獣被害対策



公明党
中本 正一 議員
佐賀市選出



国の総合経済対策を受けての
県の取組みについて



国において11月に閣議決定された令和七年度補正予算案の経済対策の柱の一つに、地域の実情に応じて生活者や事業者支援が行えるよう、「重点支援地方交付金」が過去最高の2兆円確保されている。水道料金の減免や中小企業・小規模事業者の賃上げ環境整備など、現場ニーズに応じた新たな事業が推奨メニューに追加されており、交付金を活用した迅速な対応が必要と考えるが、県はどのように取り組んでいくのか。



これまで県は、物価高騰の影響を踏まえ、即効性のある応急的な対策だけでなく、将来を見据えた構造改革や賃上げ、人材確保の好循環につなげられるよう様々な対策を組み合わせて実施してきた。

LPガスや特別高圧電力の負担軽減など、交付金の整理がついたものから速やかに、本11月定例会で追加の補正予算の提案を検討している。2月補正予算や来年度当初予算の編成も、対策が必要な分野が他にもないかという観点で確認していく。引き続き、現場の状況を把握し、国の動向も注視しつつ、早期の予算化と執行に努める。

他の質問項目▶ ガソリン税及び軽油引取税の暫定税率廃止／HPVワクチン／離婚に伴う養育支援／県議会決議への受け止めと対応



自由民主党
桃崎 祐介 議員
唐津市・玄海町選出



唐津港の整備について



国は唐津港の港湾整備と機能強化を強く打ち出しており、後追いの整備ではなく、先手の整備こそが必要であるとの姿勢を強めている。

また、唐津市においても、令和7年途中まで県の港湾課長であった中西副市長が、港湾計画の早期改定を県に強く働きかけていくと述べられた。

一方で、唐津港の港湾計画は改定から既に20年が経過しており、現在の社会情勢に十分対応できていないのか、将来を見据えたものとなっているのか、改めて検証すべき時期が来ているものと考ええる。

唐津港の港湾計画の見直し及び物流機能を初めとする港湾機能の強化について、県の考えと今後の取組みを地域交流部長に問う。



新たな岸壁を港湾計画に位置づけていくためには、県、唐津市、地元関係者一体となって取り扱う貨物量を増やしていくことが重要。港湾計画は地元の皆さんの頑張りの先に見えてくる。これからも国や唐津市とも連携しながら、唐津港の発展に取り組んでまいりたい。

他の質問項目▶ 九州新幹線西九州ルート／園芸農業の振興／学校と地域が連携した人材育成



自由民主党
原田 寿雄 議員
西松浦郡選出



佐賀が誇る本物の文化資源を
活かしたインバウンド誘客について



佐賀県は有田、唐津、伊万里などの陶磁器文化をはじめ、お茶や日本酒、温泉など多様な文化観光資源に溢れ、まさに日本文化が凝縮された地である。

文化庁の「本物の日本文化を体験する観光拠点整備事業（ACEプログラム）」等にも採択され今後の展開を期待しているが、佐賀が誇る本物の文化資源を活かしたインバウンド（訪日外国人観光）誘客について伺う。



議員ご指摘のとおり、佐賀は日本文化が凝縮された本物の宝庫であり、文化の奥深さ、日本的な和の美しさはインバウンドへの強み。佐賀は世界でこそ独自の輝きを放つと確信しており、磨き上げ・進化が必要。

有田は海外からの知名度や評価が高く、文化庁のACEプログラムで採択された「世界の文化創造拠点A-RI-TAプロジェクト」は5年で総事業費約12億円の大型事業となっている。有田の町全体を生きたミュージアムにし、世界の文化層が訪れたい文化創造拠点へと進化させ、佐賀の食や自然、各地の文化資源を繋いで文化、観光、産業の好循環を生み出していく。

他の質問項目▶ 有田町内山地区の無電柱化／地域大学振興に関するプラットフォーム事業／シベリア抑留



自由民主党
古川 裕紀 議員
神埼市・吉野ヶ里町選出



障害福祉事業所の受注拡大
に向けた取組みについて



障害のある方が地域で生き生きと暮らすためには、自信や生きがいを持って働き、社会参加することが重要である。

障害福祉事業所の業務として農福連携が広まっていることは喜ばしいが、安定した受注ができる企業からの内職などをさらに拡大していく余地もあると考える。

農福連携の取組みをさらに進めるとともに、企業からの受注機会を拡大していくため、産業界にアプローチし、力強く連携していくことが必要だと考えるがどうか。



農福連携は課題に向き合いながら、更に取組みを進める。

また、農作業は難しいが、製品梱包や磨き上げなどの作業が得意な方もおられ、その特性と能力に合った活躍の場を広げることが社会参加に繋がる。そのため、産業分野とも連携し様々な作業の受注機会を増やすことが重要。企業や官公庁と障害福祉事業所とを繋ぐ窓口設置に加え、令和8年1月には産業労働部と連携し、障害福祉事業所と企業の交流イベントを開催する。イベントを機に具体的な受発注に繋がるよう、継続的にサポートしていく。

他の質問項目▶ 東京佐賀県人会／九州新幹線西九州ルート／クリーク整備の次期対策



自由民主党ネクストさが
定松 一生 議員
杵島郡選出



「いちご」の生産振興について

問 「いちごさん」は佐賀県の主力品種であるが、近年、秋まで続く高温により花芽形成が遅れ、需要期の12月に安定的な出荷ができない、苗が枯れるといった声もある。「いちごさん」の高い収量性といった特徴を最大限に引き出すため、高温への対策を急ぐ必要がある、中でも、※株冷は今後のスタンダードな技術になるのではないかと考える。「いちごさん」の高温対策について県はどのように取り組んでいくのか。

答 県はこれまで、遮光資材による被覆や苗の温度を下げる紙ポットの活用など、JAと一体となり栽培技術の普及に取り組んできた。これからは近年の高温傾向が今後も続くことを前提として、育苗時の高温対策に加え、株冷を基本技術とした栽培を普及していく必要があると考えている。JAと連携し、株冷処理のさらなる周知や、課題に応じた具体的な取組計画を策定し、普及をすすめていく。



※株冷
果実のもととなる花芽の形成促進のため、育苗時に苗を一定期間冷蔵庫で冷やすこと

他の質問項目▶ SAGAアリーナ／担い手への農地の集約／ノリの安定生産に向けた取組み／県立高校の再編整備



自由民主党
青木 一功 議員
佐賀市選出



外国人政策について

問 近年、外国人の急増に伴って、国内各地で外国人問題が顕在化しており、生活環境や治安の悪化を懸念している。我が国の外国人政策は時代に即していないと言わざるを得ず、現状で対応できないのは当然である。自治体が行き過ぎた外国人政策を進めようとする、相当数の反対の声や意見が出るのは明らか。混乱を招かないためにも事業を安易に推進するべきではない。知事の外国人政策の考えについて答弁をお願いします。

答 人を大切にする基本理念の下、みんながお互いの想いに寄り添い、しげんに支え合う佐賀らしいやさしさのカタチ「さがすたいる」の思いで多文化共生を進めている。一方で、今、一部の外国人による違法行為などの実態もしばしば報道されるようになった。高市政権の下、外国人との秩序ある共生社会の実現に向けて、違法行為などに毅然と対応しようとする国の姿勢は評価している。

佐賀県は引き続き日本人と外国人が互いの思いに寄り添い、自然と支え合う多文化共生の地域づくりに取り組む。

他の質問項目▶ 3歳児健診における視覚スクリーニング検査／軍歴証明等／佐賀駐屯地との向き合い方



県民ネットワーク
藤崎 輝樹 議員
佐賀市選出



二七電話詐欺等の防止に向けた取組みについて

問 佐賀県においても、二七電話詐欺、SNS型投資、ロマンス詐欺が多発し、匿名・流動型犯罪グループが関与しているという話も聞き、その被害額は、令和7年10月末現在で20億円を超えており、深刻な状況にある。県民の安全・安心を脅かす犯罪を防止するため、今後、県警察はどのように取り組まれるのか。

答 県内における二七電話詐欺、SNS型投資、ロマンス詐欺の被害額は、令和7年10月末時点で約2億3000万円であり、単純計算すると、数字の上では、毎日約660万円ずつが騙し取られ続けていることになり、非常に深刻な状況である。県警察では、XやLINE、各地のデジタルサイネージ、防犯講話の機会などを通じて、最新の犯行手口の周知や固定電話に対する国際電話からの着信を停止させる申請の呼びかけなどのほか、被害発生直前での阻止のため、金融機関やコンビニエンスストア等と連携した対策を講じている。

引き続き、最新手口の広報や関係事業者と連携した被害防止措置など、幅広い取組みを進めていく。

他の質問項目▶ 佐賀新聞の県民世論調査の受け止め／交通事故防止に向けた取組み



日本共産党
武藤 明美 議員
佐賀市選出



医療費助成について

問 こども医療費助成はすでに現物給付方式になっている。①ひとり親家庭医療費助成は令和8年11月から現物給付方式に移行する。県の財政支援をぜひお願いしたいが、どう考えているのか。②重度心身障がい者医療費助成も現物給付方式にすべきでは。身体が不自由な人が何度も役所に通う手続きは負担が重い。

答 ①現物給付方式は、市町へ出向いての助成手続が不要になり利便性が高まると認識している。移行に伴う国保ペナルティの廃止は国へ引き続き要望する。また、県の財政支援は現在市町が実施している医療費助成への1/2補助を検討する。②現物給付方式への見直しを望む声があることは十分承知している。

現在、基本的に、実施主体である全市町が現物給付方式に見直したいという方向性で一致し、佐賀市が中心となって見直しに向けた協議が始められたと聞いている。

県としては、市町間の協議の内容を踏まえ、医師会や審査支払機関との調整に協力していく。

他の質問項目▶ 佐賀駐屯地／九州佐賀国際空港の滑走路延長事業に係る環境影響評価／原子力行政／教育行政



国民ネットワー
下田寛 議員
鳥栖市選出



万引き対策について



問 全国で3500億円規模といわれている万引きの対応について、店舗従業員の業務負担、精神的負担等を含めて、どのように対策を講じているのか。

また、高齢に伴い、生活環境や社会的要因を持つ万引きも増えているが、こうした課題にどのような対応強化を図っていくのか。



答 令和7年中の県内の万引きの認知状況は、10月末時点で534件、被害額は約585万円となっており、被害者の約半数が65歳以上という状況にある。

事業者等が警察へ届け出る際の負担軽減に関する取組みについては、取締りを徹底するとともに、万引きを軽視する風潮を払拭し、万引きを許さない機運を醸成する必要があると考えており、県警察では、事業者等から届出を受けた際は、迅速かつ厳正な対応を講じている。また、関係団体等と連携し、店舗内の巡回や万引きは犯罪であることを啓発する取組みを講じている。

高齢被疑者については、検挙後、当人が自活能力に著しく欠ける場合など、個別の状況に応じ、地域包括支援センターと連携する等の対応を講じている。

他の質問項目▶ ファクトチェック／新たな佐賀県立高等学校入学者選抜制度



自由民主党
坂口祐樹 議員
鹿島市・太良町選出



西九州新幹線について



問 西九州新幹線の整備には光と影があり、これには県民の理解が必要。私の地元では振興策のことであり、長崎本線上下分離区間の利便性確保、国道498号鹿島武雄間の整備、有明海沿岸道路の延伸、肥前鹿島駅周辺整備、そして有明海の再生である。県はどう取り組むのか。



答 今後も長崎本線の利便性確保のため、これまで以上にJR九州の協力を得て、市町と一緒に着実に取り組む。沿線の除草は安全を第一に、地元へ寄り添いながら検討する。

国道498号鹿島武雄間の整備は、全体のルート検討の課題を沿線3市と共有した。有明海沿岸道路の延伸は鹿島・太良地域のポテンシャルが生かされるよう、まずは事業中間を進め、一日も早い効果発現に努める。肥前鹿島駅周辺整備では鹿島・太良の宿に宿泊して楽しめる新しい形の旅「沿線えきやど」を提案したり、自発の地域づくりを強力に後押しする。有明海の再生は、二枚貝の増養殖技術の開発や漁場環境の改善などに取り組むと共に、漁協が国の交付金を活用する事業に対し、技術的助言や、基金での漁業振興事業などを行っている。

他の質問項目▶ 長崎本線の利便性確保／国道498号鹿島武雄間／有明海沿岸道路延伸／肥前鹿島駅周辺整備／有明海の再生



自由民主党ネクストさが
弘川貴紀 議員
伊万里市選出



「司書さが」について



問 令和11年に「全国図書館大会」が本県で開催されるが、図書館は教育や文化、情報、地域に不可欠なインフラであり、その中核を担うのが司書だと考える。佐賀県の読書環境の向上にむけてのこれまでの政策は評価する一方で、多くの司書は非正規職員であり図書館勤務の継続が難しいなど厳しい現状と「司書さが」という言葉の乖離を感じる。



答 本と人をつなぐ司書は、人生のナビゲーターともいえる存在であり、県民が身近に本に触れる環境づくりにも司書の活躍に支えられている。県内の図書館勤務司書からは、学びの機会や司書同士の情報交換・交流の場が欲しい等の声が届いている。こうした中、県では「司書の集い」の開催やリーダー司書による市町立図書館への巡回訪問等を通して図書館の垣根を越えたネットワークづくりに取り組んできた。今後も、各市町と協力しながら司書が誇りをもって活躍する「司書さが」を目指したい。

他の質問項目▶ これからの野球界／衛星インターネットサービスの活用



自由民主党
留守茂幸 議員
佐賀市選出



佐賀と福岡を結ぶ県道前原
富士線のトンネル化について



問 県道前原富士線は、佐賀・福岡両県を縦につなぐ重要な県道であるが、未整備区間においては幅員が狭い上にカーブが多く、冬季には交通規制も余儀なくされている現状。現在の交通量は少ないかもしれないが、地域住民の生活環境の向上、地域経済の活性化、災害時の避難路や緊急輸送路等の役割などの効果を総合的に勘案して整備推進する必要がある。特に未整備である長野峠区間はトンネル化に関する整備方針を早急に示すべきと考えるがどうか。



答 2026年ツール・ド・九州では波戸岬周辺をスタートに、唐津の素晴らしさを堪能して糸島を通り、福岡天神へと向かうルートを考えており、この大会により糸島を結ぶ人の流れをさらに唐津、呼子へとつなぐ新たな横軸を生み出す。議員提案の長野峠区間のトンネルは人や物の流れを縦につなげる新たなルートだが、多額の財政負担を伴い、両県の想いが合致したときに実現できるもの。将来的に夢のある縦のルートとして福岡県とも機会を見つけて話してみたい。自分も通る機会がなかったので現地の状況を確認する。

他の質問項目▶ 知事の政治姿勢と令和8年度の予算編成／実効ある地方創生／九州新幹線西九州ルート／中山間地域の農業・農村振興



二次元コードから映像配信ページにアクセスし、各委員会の様子をご覧になれます！

総務 常任委員会



12月9日



12月10日

付託議案・請願10件のうち、7件が原案可決、2件が同意、請願1件が採択されました。

【主な付託議案】

- 一般会計（補正）予算関係分
- 地方自治法の一部改正に伴う関係条例の整理に関する条例
- 波戸岬少年自然の家の管理について
- 教育委員会委員の任命について

【主な質疑事項】

- NHK受信料について
 - デジタルツールを用いた業務効率化について
 - 県立大学について
 - DNA型鑑定不正問題について
- など

【現地視察の様子】



佐賀総合庁舎
佐賀県立大学（仮称）基本設計の概要について

文教厚生 常任委員会



12月10日

付託議案8件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- 一般会計（補正）予算関係分
- 公立学校職員給与条例等の一部改正
- 世界海洋プラスチックプランニングセンターの管理について

【主な質疑事項】

- 子育て支援について
 - ICT活用教育について
 - 介護現場の働きやすい職場づくりの支援について
- など

【現地視察の様子】



社会福祉法人旭福社会
日新こども園好生館分園きらら
医療的ケア児や外国籍の児童の受入れについて

農林水産商工 常任委員会



12月10日

付託議案7件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- 一般会計（補正）予算関係分
- 県営土地改良事業に対する市町の負担について
- 請負契約の変更について

【主な質疑事項】

- 農業用機械に係る大型特殊自動車免許の取得について
 - 産業DX推進及びスタートアップ支援の取組みについて
 - 森林・林業の振興について
 - ノリ養殖の安定生産に向けた取組みについて
- など

【現地視察の様子】



株式会社橋本農園
県外からの農業参入による
大規模施設野菜生産の取組みについて

地域交流・ 県土整備 常任委員会



12月10日

付託議案12件が原案可決されました。

【主な付託議案】

- 一般会計（補正）予算関係分
- 港湾整備事業特別会計補正予算
- 事務処理の特例に関する条例の一部改正

【主な質疑事項】

- 「地域の」「地域による」「地域のための」地域交通を持続可能なものとするための取組みについて
 - 道路維持について
 - 歴史・文化資産のお城としての発信について
 - 無電柱化事業について
- など

【現地視察の様子】



前田利家陣跡
新たに発掘された遺構の
調査状況について

高等教育機関
問題対策等
特別委員会



12月12日

12月12日に委員会が開催され、執行部に対する審議が行われました。

【主な質疑事項】

- 学食、売店、部室を設置しない理由や設置検討の余地
- オールジェンダートイレを設置する理由や利用者の負担感
- 「地域構想推進プラットフォーム」の概要や県が目指す姿
- 教員確保に係る募集分野とスケジュール、給与などの雇用条件

など

【質疑の様子】



決算特別委員会の決算審査概要

決算特別委員会の映像▶



委員長	副委員長	委員
坂口 祐樹	定松 一生	武藤 明美、石倉 秀郷、木原 奉文、弘川 貴紀、江口 善紀、中村 圭一、藤崎 輝樹、一ノ瀬 裕子、木村 雄一、青木 一功、桃崎 祐介、石丸 太郎

11月5日から17日まで決算特別委員会を開催し、「令和6年度佐賀県歳入歳出決算の認定について」、「令和6年度佐賀県工業用水道事業決算の認定について」以上2件の議案が審査され、いずれの議案も賛成者多数又は全会一致で認定されました。

【主な審議内容】

総務常任委員会関係

- 県立大学の建設費の見通しなどの県民の不安解消に向けた取組み
- 私立学校や私学団体への支援の取組み
- 自主財源の確保や効率的な予算執行による歳出不用額の縮減の取組み など

文教厚生常任委員会関係

- 「さがすたいる」の想いが広まるための普及啓発の取組み
- 高齢者福祉施設などの実効性の高い感染症対策の強化の取組み
- ICTツールを活用した持続可能な特別支援学校のスクールバス運行の取組み など

農林水産商工常任委員会関係

- 新たな産業用地の確保の取組み
- 東部工業用水道事業の早期の給水料金の見直しや適切な設備更新の取組み
- 農福連携による農業者と福祉事業所の双方の課題や不安を克服する取組み など

地域交流・県土整備常任委員会関係

- 地域交通の持続可能な運行に向けての関係者と連携した取組み
- 伊万里港におけるコンテナ助成制度の活用や臨港道路の4車線化などの取組み
- 佐賀城公園の本物の価値やポテンシャルを活かした公園整備の取組み など

◆全国都道府県議会議長会から
表彰を受けました

令和7年中に在職30年及び在職10年を迎えた議員が全国都道府県議会議長会から表彰されました。

- 【30年】 石井秀夫議員、武藤明美議員、木原奉文議員
- 【10年】 池田正恭議員、野田勝人議員、西久保弘克議員



◀前列左から30年表彰を受けた武藤議員、石井議員、木原議員と後列左から宮原議長、八谷副議長



佐賀大学の学生との意見交換会を開催しました

佐賀県議会では、県民の皆さんに対して開かれた県議会を目指し、令和7年12月に佐賀大学の学生（17名）と県議会議員（12名）との意見交換会を開催しました。

学生の皆さんからは、「人生で一度は佐賀県に。」「1% for ART→1% for CULTURE」「住みよい佐賀県の実現に向けた若者視点からの提案」「佐賀県をもっと盛り上げるためには -Instagramで佐賀再興-」の4つの提案をしていただきました。

様々なテーマで、学生の視点から佐賀県についての意見を聞く貴重な機会となりました。



意見交換会の様子



詳しくはこちら



◆ 横田拓也氏・飯塚耕一郎氏を迎え「拉致問題を考える県民の集い」を開催しました

佐賀県議会では、北朝鮮による拉致問題の全容解明と一日も早い拉致被害者の救出を支援することを目的として、有志により議員連盟を設立し、活動を行っています。

この度、令和8年1月17日にメートプラザ佐賀において、佐賀県及び救う会佐賀などとの共催で県民の集いを開催しました。



▲横田拓也氏



▲飯塚耕一郎氏



挨拶

◀議員連盟
石倉会長

◆ 国際交流推進議員連盟が「韓国公州市」を訪問しました

韓国公州市は、唐津市加唐島で生誕したと言われている百濟*25代王「武寧王」の時代に首都（熊津）があった場所で、子の聖明王は日本に仏教を伝えたことで知られています。

公州市とは唐津市の民間団体が加唐島で武寧王の生誕祭を開催するなど相互交流が続いており、公州市議会を表敬訪問するとともに、公州市武寧王ネットワーク協議会の代表で国立公州大学校名誉教授の尹龍熾氏と今後の交流の在り方について意見交換を行いました。



▲唐津市加唐島の武寧王生誕地記念碑



▲武寧王の胸像

※百濟（346年-660年）

朝鮮三国時代の国の一つ。

よく知られる「白村江の戦い」で、百濟は唐・新羅の連合軍に倭国（当時の日本）と共に敗れたが、基山町の「基肄城」などの古代山城は百濟人技術者が築城を指導したといわれる。

詳しくはこちら

